

創立40周年 記念誌



発行
大元学区体育協会
連絡先 岡山市北区大元上町 9-43
大元小学校内
TEL (086) 241-8562
発行責任者 河原 隆久
印刷所 友野印刷株式会社
TEL (086) 255-1101 (代)



体協の活動拠点、大元小学校開校当時の全景
(昭和 49 年撮影、大元小学校 40 周年記念誌より)

生徒の数は更に増えそうな勢いです。このため、学校側でも南館の校舎増築（平成十八年度）や同校舎と体育館の耐震化工事（平成二十二年・二十三年度）を逐次実施。それに先駆けてグラウンドの夜間照明（平成六年度）や運動場の拡張工事（平成十五年十月～平成十七年九月）にも取り組んでいただき、現在では市内有数の施設の整った大規模校となっています。

活動拠点は大元小学校
昭和四十八年四月に大元小学校が開校し、近隣の鹿田学区や西学区関係者の協力を得ながら設立準備が進められ、初代会長に安田正章氏が就任したのが当体協の始まりです。しかし、新校舎への教室移転やスポーツ少年団の発足が後年となったため、実質的な活動は、記録的には会則等が整った昭和五十一年六月以降からとなっています。この年には、文部省から「学校体育施設開放事業の推進について」通達が発せられ、大元学区にも学校施設の開放を協議する「小学校校庭開放事業運営

委員会」（現大元小施設開放運営委員会）が発足。体協傘下の各利用団体の代表らが参加し、本格的な活動がスタートしています。
学区関係団体の協力と数々にわたる施設の拡充・整備
開校当時、大元小に通う子ども達は約七百五十名。現在の児童数千百余名からすると、この四十年間で約三百五十名もの生徒が増えたこととなります。また、学区人口もこの十年間だけを比べても約三千名（千四百世帯）の増加があり、現在新築中のマンションの数を考えると、

スポーツで明るく元気な学区づくり
～四十年の確かな歩みを振り返って～



大元学区体育協会（以下体協）が発足して四十一年目の新しい年を迎えました。これを機に、これまでの体協の歩みを振り返り、更に充実した活動を続けていくための課題などをまとめてみました。

大元学区体育協会
会長 河原 隆久

選手たちの活躍が地域を明るく元気に
学校施設の充実とともに、スポーツ少年団の競技力も格段に向上しました。県予選を勝ち抜き、全国大会に初出場したのは昭和六十一年度（ソフトボール・バレーボール部）のことでした。その後は中国大会にもたびたび出場。この夏、全国大会に出場した女子バレーチームは、『サマーフェスタおもと2013』に集まった大勢の方々から激励を

大元小学校の施設整備は、日頃から学校を利用している体協関係者にとっても非常に切実な問題でした。必要な整備については「大元小学校環境整備委員会」で、また各工事の施工前には「大元小学校施設開放運営委員会」で関係者に事前説明があり、工事期間中は利用団体の方々には大変ご不便をおかけしましたが、皆様のご協力で事故もなく、工期内にすべての工事が無事完了しています。特に、隣接の中央公園の一部を活用した運動場の拡張は、後の校舎増築に伴う運動場の確保とも関連していただけに、学区の皆様方のご理解ご協力に心から感謝を申し上げます。



第 33 回全日本小学生女子バレーボール全国大会で岡山県勢として初めて全国制覇した大元女子チームと横井監督・板野コーチ＝東京体育館（2013.8.16）

多様化するスポーツニーズへの対応
これまで好成績を維持している大元ですが、課題もあります。近年、学区内の児童数が増えている割に、スポーツ少年団員の目立った増加が見られません。サッカーやテニス、水泳などの種目を合わせれば、かなりの数になると思われませんが、団員数の一般的な伸び悩みは、各学区スポーツ少

国調査によりますと、この二十一年間で二十～三十代のスポーツ離れが急激に進んでいるようです。丁度、家庭用ゲーム機器の普及と時期が重なっており、多くの仲間とスポーツを楽しむよりも、一人室内でゲームに夢中になる子どもが増えている現実に、青少年の心身の健全な発達を願う立場から、一抹の不安を感じざるを得ません。親がスポーツに関心を示さない家庭では、必然的に子どもがスポーツに接する機会も少なくなり、悪循環に陥っているような気がしています。



第 70 回岡山市民体育大会の優勝旗を手にする体協執行部とリレーで活躍した中高生たち＝カンコースタジアム（2012.10.8）

また、最近ではスポーツの楽しみ方も多様化しています。本格的に競技スポーツをめざす人、健康の維持・増進を目的に生涯スポーツを楽しむ人、娯楽としてのスポーツ観戦やサポーターとして試合を盛り上げる人など、スポーツへの関わり方に大きな差があります。体協ではこれらの多様なニーズに、学区選出の岡山市スポーツ推進委員（三名）の協力をいただきながら、競技スポーツだけでなく、生涯スポーツをめざす方々を対象に、行事種目の見直しやニュースポーツの普及などにも取り組んで行く必要

国調査によりますと、この二十一年間で二十～三十代のスポーツ離れが急激に進んでいるようです。丁度、家庭用ゲーム機器の普及と時期が重なっており、多くの仲間とスポーツを楽しむよりも、一人室内でゲームに夢中になる子どもが増えている現実に、青少年の心身の健全な発達を願う立場から、一抹の不安を感じざるを得ません。親がスポーツに関心を示さない家庭では、必然的に子どもがスポーツに接する機会も少なくなり、悪循環に陥っているような気がしています。

岡山市民体育大会の上位学区成績【過去 10 年間総合順位】

大会	年度	1 位	2 位	3 位
第 71 回	平成 25 年	石井	大元	御南
第 70 回	平成 24 年	大元	石井	御南
第 69 回	平成 23 年	大元	石井	御南
第 68 回	平成 22 年	大元	石井	御南
第 67 回	平成 21 年	大元	御南	津島
第 66 回	平成 20 年	御南	大元	芥子山
第 65 回	平成 19 年	雨天のため中止		
第 64 回	平成 18 年	大元	御南	芥子山
第 63 回	平成 17 年	大元	芥子山	御南
第 62 回	平成 16 年	大元	御南	津島
第 61 回	平成 15 年	大元	豊	芥子山

また、最近ではスポーツの楽しみ方も多様化しています。本格的に競技スポーツをめざす人、健康の維持・増進を目的に生涯スポーツを楽しむ人、娯楽としてのスポーツ観戦やサポーターとして試合を盛り上げる人など、スポーツへの関わり方に大きな差があります。体協ではこれらの多様なニーズに、学区選出の岡山市スポーツ推進委員（三名）の協力をいただきながら、競技スポーツだけでなく、生涯スポーツをめざす方々を対象に、行事種目の見直しやニュースポーツの普及などにも取り組んで行く必要

また、最近ではスポーツの楽しみ方も多様化しています。本格的に競技スポーツをめざす人、健康の維持・増進を目的に生涯スポーツを楽しむ人、娯楽としてのスポーツ観戦やサポーターとして試合を盛り上げる人など、スポーツへの関わり方に大きな差があります。体協ではこれらの多様なニーズに、学区選出の岡山市スポーツ推進委員（三名）の協力をいただきながら、競技スポーツだけでなく、生涯スポーツをめざす方々を対象に、行事種目の見直しやニュースポーツの普及などにも取り組んで行く必要

があると考えられています。それに加え、スポーツの楽しさを理解してもらうためには、指導者の創意工夫も必要です。平成二十一年秋、大元小で誘致開催された「第四十七回中・四国小

スポーツを通じ 仲間づくりと健康づくりを



大元学区連合町内会
会長 田中 修生

大元学区体育協会が、このたび創立四十周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

昭和四十八年に大元小学校が新設され、新たな小学校区協会が設立されました。それ以来、役員をはじめ指導者の皆様のご努力により、学区体

育協会は大きく発展してこられました。
大元学区誕生の当時から考えますと、人口は大幅に増加し、現在では近隣学区と並ぶ大きな学区となり、連合町内会は三十五の単位町内会から構成され、安心・安全のまちづくりや各種地域活動に取り組んでおります。

近年都市化が進むとともに核家族化や少子高齢化の進展、生活様式や価値観の多様化に伴い、住民相互の連帯感や地域のつながりの希薄化が懸念されておりますが、日頃から地域の交流やふれあいにより仲間づくりを進め、連帯感を醸成することが発展の原動力になると考えます。
学区体育協会の地域に果たす役割は大きく、学区民の健康づくりをはじめ交流や親睦を図りながら、一方ではスポーツ少年団活動など広い分野で活動されており、地域の活性化にも大きな役割を果たしております。

学区民総参加の体育祭をはじめ、各種スポーツ大会の積極的な開催などにより、その成果は目覚ましく、岡山市民



交通安全母の会、町内会役員が参加した、大元学区交通安全対策協議会による交通安全パレード＝大元学区民体育祭(2013.9.22)

となりました。
社会的には性悪説がまかり通るような出来事もよく耳にしますが、スポーツを通じマナーやエチケットなどを規範としながら、スポーツの楽しさや喜びを味わい、仲間づくりと健康づくりの向上につながればと願うところでです。

体育大会での四年連続優勝や、スポーツ少年団女子バレーの全国大会優勝と男子バレーBクラスの中国大会優勝など、輝かしい成果を収められましたことは学区民の誇り

ます。ブロック対抗のソフト、バレー、卓球の各大会は、子どもたちにとって、保護者の皆さんや近所をよく顔を合わす皆さんが活躍する会です。まず、大人が楽しむ。その姿を見た子どもが、自分たちも大人の真似をして楽しむ。というようにして、次第に地域が丸ごと楽しむ。この気持ち

最後、あらためて大元学区体育協会の四十年間を支えてきてくださった皆様に感謝するとともに、今後も「繋がる力」で子どもたちを支えてください。また、お祝いの言葉といたします。

体協四十周年によせて



岡山市立大元小学校
校長 深井 文雄

「校長先生、また優勝したよ。」と賞状やトロフィーを持って校長室に報告に来るスポーツの子どもたちの笑顔。どの子の顔も自信にあふれていて大好きです。その都度、記念にチームごとに写真を撮っているのですが、毎年、このように(下写真)たくさんになります。写真にタイトルをつけていると、お家のみなさんの声援が聞こえてくるようで、嬉しくなっています。

おかげさまで、大元小学校開校以来、生涯スポーツのスタートとしてのスポーツ少年団活動をはじめ様々なイベントを通して子どもたちを暖かく支えていただき、感謝しております。その体育協会が、四十周年という記念すべき年を迎えられますことは、まことに喜ばしく意義深いこととお祝い申し上げます。

小学生時代にスポーツする喜びを知った子どもは、大人になっても何らかの形でス

大元学区体育協会の魅力に、多様な年齢層、多様な目的に応じた場を提供して下さっているということがあり

から、参加させていただくたびに、大元学区のすばらしいパワーを感じることができ

大元学区体育協会の創立四十周年を迎えるに際し、まず、創立当初から今まで地道な活動を続けてこられた大勢の先輩諸氏に対し、心から敬意を表します。また、引き続き現役で活動されている皆様にも重ねて感謝申し上げます。

今日では隣接する旧鹿田学区、旧西学区ともスポーツを通じて年々交流が深まって、学区内は一心同体感にあふれており、本当に喜ばしいことでもあります。毎年行われる岡山市民体育大会では常にトップクラスの成績を収め、スポーツ少年団活動でも県内の中心的な団活動を展開し続けています。女子バレーボールは今年度、全国大会で念願の初優勝を果たし、ソフトボールは



創立四十周年を迎えてのご挨拶



大元学区体育協会相談役(前会長)
大元スポーツ少年団本部長
平林 久一



全国大会で大活躍する等の成果を出しております。また、他の部員も夢と希望を抱いて頑張っております。今や大元学区体育協会は、スポーツ大元の名声を轟かせており、このことが長く続くことを念じてやみません。

私は大元学区に住んでいることに感謝しながら、これからも力の限り大元学区のスポーツ振興と地域社会の発展のため努力していく所存であります。今後とも皆様のあたたかいご支援とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。とともに、大元学区体育協会が五十周年、六十周年を目指してますます発展すること、大元学区から将来オリンピック選手が出ることを祈念し、私のご挨拶と致します。

大元体協 40 年の歩み

昭和 48 年度 鹿田・西学区の世話人関係者で設立準備会を結成
設立総会で初代会長に安田正章氏が就任
* 3 月に大元小が開校、9 月から新校舎に移転
昭和 50 年度 スポーツ少年団が結成され、ソフトボール・バレーボール・卓球・剣道・柔道部が発足
大元小校庭開放事業運営委員会が発足
創立 5 周年記念式を挙げる
昭和 51 年度 創立 10 周年記念式を挙げる
昭和 53 年度 創立 10 周年記念式を挙げる
昭和 58 年度 2 代目会長に平林久一氏が就任
第 43 回岡山市民体育大会 17 位 / 45 学区
スポーツ少年団創立 10 周年記念式
昭和 59 年度 ゲートボール部・クローカー部 (現グランドゴルフ部) が発足
大元体協スローガン「学校教育」「家庭教育」「社会教育」
昭和 60 年度 スポ少ソフトボール部が第 1 回全国大会に出場
スポ少女子バレーボール部が第 3 回全国大会に出場
昭和 61 年度 第 46 回岡山市民体育大会 10 位
スポ少ソフトボール部が全国大会に出場
昭和 62 年度 第 47 回岡山市民体育大会 14 位
スポ少ソフトボール部が全国大会に出場
スポ少女子バレーボール部が全国大会に出場
平成 元 年度 スポ少女子バレーボール部が全国大会に出場
平成 4 年度 スポ少ソフトボール部が全国大会に出場
平成 5 年度 創立 20 周年記念式を挙げる
平成 6 年度 第 52 回岡山市民体育大会 5 位
平成 7 年度 第 53 回岡山市民体育大会 7 位
スポ少ソフトボール部が全国大会に出場
大元小グラウンドに夜間照明設備設置
「第 1 回大元まつり」を開催 (～第 5 回まで)
平成 9 年度 第 54 回岡山市民体育大会 9 位
平成 10 年度 第 56 回岡山市民体育大会で準優勝
第 57 回岡山市民体育大会で総合優勝
スポ少ソフトボール部が全国大会に出場
平成 11 年度 スポ少男子バレーボール部が全国大会で 3 位入賞
スポ少バレーボール部が中国大会に出場
スポ少ソフトボール部が全国大会に出場
平成 12 年度 第 59 回岡山市民体育大会で準優勝
スポ少男子バレーボール部が全国大会に出場
スポ少ソフトボール部が西日本大会に出場
平成 13 年度 第 60 回岡山市民体育大会で総合優勝
スポ少ソフトボール部が全国大会に出場
スポ少バレーボール部が全国大会に出場
平成 14 年度 第 61 回岡山市民体育大会で総合優勝
スポ少ソフトボール部が西日本大会に出場
スポ少ソフトボール部が中・四国交歓大会に出場
平成 15 年度 創立 30 周年記念式を挙げる
スポ少女子バレーボール部が全国大会で 3 位入賞
第 62 回岡山市民体育大会で総合優勝
環境整備委員会が発足
平成 16 年度 3 代目会長に河原隆久氏が就任
スポ少ソフトボール部が西日本大会に出場
第 63 回岡山市民体育大会で総合優勝
運動場拡張工事が完了 (9 月)
平成 17 年度 第 64 回岡山市民体育大会で総合優勝
スポ少ソフトボール部が西日本大会に出場
平成 18 年度 スポ少ソフトボール部が中・四国交歓大会に出場
平成 20 年度 第 66 回岡山市民体育大会で準優勝
スポ少男子バレーボール部が中国大会に出場
スポ少ソフトボール部が西日本大会に出場
スポ少ソフトボール部が中・四国交歓大会に出場
平成 21 年度 第 67 回岡山市民体育大会で総合優勝
スポ少ソフトボール部が中・四国交歓大会に出場
大元小で第 47 回中・四国小学校体育研究大会を開催
平成 22 年度 第 68 回岡山市民体育大会で総合優勝
スポ少男子バレーボール部が全国大会に出場
スポ少女子バレーボール部が全国交流大会に出場
平成 23 年度 第 69 回岡山市民体育大会で総合優勝
体育館耐震改修工事が完了 (11 月)
平林金属女子ソフトボールクラブが全日本クラブ選手権 5 連覇を達成
平成 24 年度 平林金属男子ソフトボールクラブが二冠 (全日本クラブ選手権・全日本総合選手権) を獲得
第 70 回岡山市民体育大会で総合優勝
スポ少ソフトボール部が西日本大会に出場
平林金属男子ソフトボールクラブが三冠 (全日本総合選手権・西日本リーグ・リーグ決勝トーナメント) を獲得
スポ少女子バレーボール部が全国大会で初優勝
スポ少男子バレーボール部が中国大会 B クラス優勝
スポ少ソフトボール部が中・四国交歓大会に出場
スポ少ソフトボール部が中国大会に出場
第 71 回岡山市民体育大会で準優勝
創立 40 周年記念事業の一環としてホームページ開設

【大元学区体育協会永年功労者】 (10 年以上・順不同)

Table with 4 columns: Name, Age, Position, Experience. Lists long-serving members like 平林 久一, 時光 隆子, 吉浦 勝利, etc.

【大元スポーツ少年団関係功労者】 (10 年以上・順不同)

Table with 4 columns: Name, Age, Position, Experience. Lists有功 members from the youth sports club like 平林 久一, 鮑浦 輝明, 河辺 早美, etc.

【特別功労者】

Table with 4 columns: Name, Age, Position, Experience. Lists special有功 members like 今滝 清子, 三宅 哲.

【岡山県を代表して全国大会等に出場した団体・個人】 (2007 年 4 月～ 2013 年 8 月)

Table with 4 columns: Team/Individual, Event, Year, Result. Lists achievements at national and regional levels.

被表彰者・団体 出場大会名 開催年・月

Table listing award recipients and their achievements in various sports events.

【大元学区体育協会役員】 任期：平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月

Table listing the board members and their roles, including 相談役, 顧問, 会長, 副会長, 理事長, etc.

迎えた最終日、ここまできた相手は関係ない。自分たちの力を全て出せるかどうかだ。大元の選手が保護者と試合中に手を振りあう光景が、東京でも注目を集めていた。保護者と子どもが一緒に試合を楽しむ一体感が、チーム力を何倍にもし、この日も二試合を競り勝った。一月に



夏の全国大会制覇に続き、全国スポーツ少年団バレーボール交流大会岡山県大会を制し、今春の全国大会 (和歌山市) 出場を決めた大元女子チーム＝白梅総合体育館 (2013.11.24)

八月十三日 (火)、全日本小中学生バレーボール大会全国大会の開会式が始まった。男女 98 チームの子ども達が入場。整列するのだが、何度体験しても新鮮な感動を与えてくれる。岡山県代表、男子・落合ジュニア、女子・大元」のアナウンスが流れ、緊張の中にも堂々と行進する子ども達を見た瞬間には、喜びと感激で涙が出そうだった。明日からどんな試合ができるだろう。不安はほとんど感じない。試合をできること自体が楽しかった。

開会式が終わると、選手村となる品川プリンスホテルで最終日の八月十六日 (金) まだ、三泊四日のホテル暮らし。子ども達にとっては試合とは別の大きな緊張感、すばらしい体験だ。八月十四日 (水) いやいよ試合が始まった。多少の不安はあったが、自分たちのペースで何とか三試合を勝利した。翌日も「いつでも笑顔」を合言葉に三試合を勝ち抜き、最終日の準々決勝にコマを進めた。迎えた最終日、ここまできた相手は関係ない。自分たちの力を全て出せるかどうかだ。大元の選手が保護者と試合中に手を振りあう光景が、東京でも注目を集めていた。保護者と子どもが一緒に試合を楽しむ一体感が、チーム力を何倍にもし、この日も二試合を競り勝った。一月に

大元神社で絵馬に書いた「全国制覇」が目印だ。一セット目 17-19 から終盤に 4 点を取って逆転勝ち。すごい子ども達だ。「ドキドキする試合をたくさんありがとう。感動はもう十分したので、最後はスカッと気持ちのいい試合が見たいなあ」子ども達にかけた最後の冗談半分、本音半分の言葉だ。二セット目が始まった。子ども達は、ボールも相手もよく見えていた。一気に差をつけ「20-7」、とうとうあと 1 点までたどり着いた。エースの光森が、大きく深呼吸して、ゆっくりサーブの助走に入った。真ん中を捉えたボールがスリットとネットを越えた。ボールは、相手選手の手をはじき、すぐにコートに落ちた。主審の笛が鳴った。夢に見た「全国制覇」が現実となった瞬間だ。子ども達が跳ねながら整列する。みんな応援席へ挨拶に走る。子どもと保護者が最高の笑顔で包まれた。ゆっくりと時間が流れた。大元小での練習がすごく懐かしく思えた。

「全国制覇」

大元スポーツ少年団バレーボール部 部長 榎井信治